

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 特許公報(B2)

(11) 特許番号

特許第3596482号

(P3596482)

(45) 発行日 平成16年12月2日(2004.12.2)

(24) 登録日 平成16年9月17日(2004.9.17)

(51) Int. Cl.⁷

G06F 13/00

F I

G06F 13/00 540F

請求項の数 5 (全 9 頁)

(21) 出願番号	特願2001-100501 (P2001-100501)	(73) 特許権者	000114330
(22) 出願日	平成13年3月30日 (2001.3.30)		ムサシ化成工業株式会社
(65) 公開番号	特開2002-297488 (P2002-297488A)		東京都荒川区西日暮里2丁目6番1号
(43) 公開日	平成14年10月11日 (2002.10.11)	(74) 代理人	100082108
審査請求日	平成14年10月25日 (2002.10.25)		弁理士 神崎 真一郎
		(72) 発明者	林 芳史
			東京都葛飾区亀有1-10-6-104
		(72) 発明者	山田 文一
			東京都葛飾区細田4-31-3
		(72) 発明者	関 和治
			東京都世田谷区鎌田2-14-2
		審査官	緑川 隆

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 パーソナルバナー作成プログラム

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項1】

インターネットを介して受信されるホームページに予め添付された既存バナーをパーソナルバナーに変更するパーソナルバナー作成プログラムであって、
 該パーソナルバナー作成プログラムは、パーソナルバナーに変更すべき既存バナーと、この既存バナーの代わりに用いるパーソナルバナーの画像と、さらに該パーソナルバナーのリンク先アドレスとを記録し、
 ブラウザがインターネットを介して上記ホームページを受信する際には、該ホームページのデータを上記ブラウザに先立って入力し、かつ該ホームページに添付された上記既存バナーをパーソナルバナーに変更してから、変更後のホームページのデータを上記ブラウザに受け渡すことを特徴とするパーソナルバナー作成プログラム。

10

【請求項2】

上記パーソナルバナー作成プログラムは、変更すべき既存バナーを有するホームページを表示し、このホームページに添付された既存バナーが変更のために選択されたら、該ホームページのアドレスと、選択された既存バナーのホームページ上の位置とを記録することを特徴とする請求項1に記載のパーソナルバナー作成プログラム。

【請求項3】

上記パーソナルバナー作成プログラムは、複数のパーソナルバナーの画像を表示し、いずれか1の画像が選択されたら、該画像を上記既存バナーの代わりに用いるパーソナルバナーの画像として記録することを特徴とする請求項1又は請求項2に記載のパーソナルバナー

20

ー作成プログラム。

【請求項 4】

上記パーソナルバナー作成プログラムは、複数のパーソナルバナーのリンク先アドレスを表示し、いずれか 1 のアドレスが選択されたら、該アドレスを上記既存バナーの代わりに用いるパーソナルバナーのリンク先アドレスとして記録することを特徴とする請求項 1 ないし請求項 3 のいずれかに記載のパーソナルバナー作成プログラム。

【請求項 5】

上記パーソナルバナー作成プログラムは、オペレータによって入力されたリンク先アドレスを上記既存バナーの代わりに用いるパーソナルバナーのリンク先アドレスとして記録することを特徴とする請求項 1 ないし請求項 3 のいずれかに記載のパーソナルバナー作成プログラム。

10

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明はパーソナルバナー作成プログラムに関し、より詳しくは、ホームページに予め添付されている既存バナーを、オペレータの好みのパーソナルバナーに変更することができるパーソナルバナー作成プログラムに関する。

【0002】

【従来の技術】

パーソナルコンピュータを通信回線を介してインターネットに接続し、ブラウザによってホームページを表示させることは広く行われている。そしてこの種のホームページでは一般に公告などを目的として複数の既存バナーが添付されており、いずれかの既存バナーを選択（クリック）することにより他のホームページへリンクすることができるようになっている。

20

【0003】

【発明が解決しようとする課題】

しかしながら、上記既存バナーはホームページの製作者によって予め決定されているため、パーソナルコンピュータのオペレータが閲覧したいホームページにリンクするような既存バナーが添付されているとは限らない。

そしてオペレータが頻繁に閲覧するホームページが複数ある場合、それぞれのホームページを行き来するためには、ブラウザに閲覧したいホームページのアドレスを入力してそのアドレスを選択する必要がある、操作が煩雑であった。

30

そこで本発明は、オペレータの選択したホームページに予め添付されている既存バナーをオペレータの任意のパーソナルバナーに変更することができるようにし、このパーソナルバナーを選択することにより直ちに望みのホームページを表示させることができるようにしたパーソナルバナー作成プログラムを提供するものである。

【0004】

【課題を解決するための手段】

すなわち本発明は、インターネットを介して受信されるホームページに予め添付された既存バナーをパーソナルバナーに変更するパーソナルバナー作成プログラムであって、該パーソナルバナー作成プログラムは、パーソナルバナーに変更すべき既存バナーと、この既存バナーの代わりに用いるパーソナルバナーの画像と、さらに該パーソナルバナーのリンク先アドレスとを記録し、

40

ブラウザがインターネットを介して上記ホームページを受信する際には、該ホームページのデータを上記ブラウザに先立って入力し、かつ該ホームページに添付された上記既存バナーをパーソナルバナーに変更してから、変更後のホームページのデータを上記ブラウザに受け渡すようにしたものである。

【0005】

以上のパーソナルバナー作成プログラムにおいては、予めパーソナルバナーに変更すべき既存バナーと、この既存バナーの代わりに用いるパーソナルバナーの画像と、さらに該パ

50

ーソナルバナーのリンク先アドレスとを記録する。

この状態において、ブラウザがインターネットを介してホームページを受信すると、パーソナルバナー作成プログラムは該ホームページのデータを上記ブラウザに先立って入力するようになる。そしてホームページに添付された既存バナーからパーソナルバナーに変更すべき既存バナーを見つけたら、該既存バナーをパーソナルバナーの画像に変更するとともに、既存バナーのリンク先アドレスを該パーソナルバナーのリンク先アドレスに変更し、この後に、変更後のホームページのデータを上記ブラウザに受け渡す。

したがって、ブラウザは上記変更後のパーソナルバナーを有するホームページを表示するようになり、この状態でオペレータがパーソナルバナーを選択すれば、該パーソナルバナーのリンク先アドレスで指定されたホームページが直ちに表示されるようになる。

10

このように、オペレータが頻繁に閲覧するホームページに最初から添付されている既存バナーをパーソナルバナーに変更しておけば、他の好みのホームページを閲覧するためにブラウザにアドレスを入力したり、入力したアドレスを表示させて選択するといった煩雑さを解消することができる。

【 0 0 0 6 】

【 発明の実施の形態 】

以下図示実施例について本発明を説明すると、図 1 において、パーソナルコンピュータ 1 は通信回線 2 を介してインターネットの W E B サーバ 3 に接続することができるようになっている。

パーソナルコンピュータ 1 には予めブラウザ 4 がインストールされており、このブラウザ 4 は W E B サーバ 3 から受信したホームページ 5 をパーソナルコンピュータ 1 の表示部 1 a に表示することができるようになっている。図 2 はブラウザ 4 が表示したホームページ 5 の一例を示しており、このホームページ 5 には公告などを目的とし、かつクリックすることで他のホームページにリンクすることができる従来公知の既存バナー 5 a が添付されている。

20

また図 1 に示すように、上記パーソナルコンピュータ 1 には予め本発明に係るパーソナルバナー作成プログラム 6 がインストールされており、該プログラム 6 の画面が表示部 1 a に表示されている。

【 0 0 0 7 】

図 3 に示すように、上記パーソナルバナー作成プログラム 6 においては、最初にパーソナルバナーに変更すべき既存バナーの選定作業を行なうようになる。

30

すなわち、オペレータは先ずパーソナルバナー作成プログラム 6 とブラウザ 4 とを起動し、ブラウザ 4 に変更したい既存バナー 5 a を有するホームページ 5 を表示させる。この作業においては、ブラウザ 4 は通信回線 2 を介してインターネットの W E B サーバ 3 に接続されている必要はなく、過去に接続されてパーソナルコンピュータ 1 内に保存されているホームページ 5 を表示していてもよい。

ブラウザ 4 に変更したいホームページ 5 を表示させたら、パーソナルバナー作成プログラム 6 に、当該ホームページ 5 を取り込むことを指令する。するとパーソナルバナー作成プログラム 6 は、ブラウザ 4 が保存している上記ホームページ 5 に関するデータを取り込み、これをブラウザ 4 が表示するのと同じの形態でパーソナルバナー作成プログラム 6 内で

40

表示するようになる。

なお、従来公知の各種のブラウザ 4 において、現在表示させているホームページ 5 のデータがどこに記憶されているかは既に知られており、またこのようなデータの取り込みは既に市販されているホームページ作成ソフト等で用いられて公知であるので、その具体的な説明は省略する。

【 0 0 0 8 】

図 4 はパーソナルバナー作成プログラム 6 が取り込んだホームページ 5 のデータの一例である。このデータは H T M L 言語で記載されており、タグリストと称されている。

図 4 に示す表示用タグリストは、画像やさまざまな大きさの文字などで構成されるホームページ 5 をすべて文字列として表示したものであり、この表示用タグリストにはホームペ

50

ージに配置される文字の位置や大きさ、ホームページに用いられる背景の画像ファイル名、既存バナー 5 a 等についての記述がなされている。

また、表示用タグリストのうち < > に囲まれたものをタグとよび、ホームページに実際に表示される文字列や画像ファイル名等にこのタグを付与することで、これらの文字列や画像ファイルの位置や大きさなどが規定されている。

ここで、図 2 に示すブラウザ 4 に表示されたホームページ 5 と、図 4 に示す図 2 のホームページ 5 についての表示用タグリストとを対比すると、5 a が既存バナー、5 b がホームページ 5 のアドレス (URL)、5 c はその他の部分である文字列等に対応している。

また、上記既存バナー 5 a においては、該既存バナー 5 a がリンクするホームページのアドレス 5 1 と、既存バナー 5 a に用いる画像のファイル名 5 2 と、さらに既存バナー 5 a が実際にホームページに表示される際のサイズ 5 3 とを備えている。

10

【 0 0 0 9 】

次に、上述したようにパーソナルバナー作成プログラム 6 は、図 4 に示す表示用タグリストを取り込んだら、該表示用タグリストに基づいてブラウザ 4 による表示と同一の形態でホームページ 5 を表示するようになる。

この状態となったら、オペレータは、該ホームページ内に表示される複数の既存バナーのうち、個人用のパーソナルバナーに変更したい既存バナー 5 a を例えばマウスによって選択する。なお、図 2、図 4 には 1 つの既存バナーのみを表示してあるが、一般にホームページは複数の既存バナーを備えている。

オペレータによって 1 つの既存バナー 5 a が選択されると、ブラウザ 4 においては該既存バナー 5 a のリンク先をアクセスしてこれを表示するようになるが、パーソナルバナー作成プログラム 6 においては、選択された既存バナー 5 a がホームページ 5 内における複数の既存バナーにおける何番目の既存バナーかを特定し、これを記録する。

20

このとき、パーソナルバナー作成プログラム 6 は、取り込んだ図 4 に示す表示用タグリストに基づいてホームページ 5 を表示しているため、ブラウザ 4 と同様にしてどの既存バナーが選択されたかを検出することができる。また、上記表示用タグリストから選択された既存バナーがホームページの何番目に表示されるべき既存バナーであるかを得ることができるので、これを選択された既存バナーのホームページ 5 上の位置情報として記録する。このように、パーソナルバナー作成プログラム 6 は、表示したホームページ 5 から既存バナー 5 a が選択された場合には、オペレータによって選択された既存バナー 5 a が構造解析用タグリストの何番目の既存バナーであるかを記憶し、さらに上記ホームページ 5 のアドレス (URL) を記憶する。

30

【 0 0 1 0 】

次に、パーソナルバナー作成プログラム 6 はパーソナルバナーの設定画面を表示する。このパーソナルバナーの設定画面には、予め作成されてパーソナルコンピュータ 1 に記憶されている複数のパーソナルバナーの画像と、パーソナルバナーのリンク先のアドレスとがそれぞれ列記されている。

そして、オペレータが任意のパーソナルバナーの画像とパーソナルバナーのリンク先のアドレスを選択すると、パーソナルバナー作成プログラム 6 はそれらをパーソナルコンピュータ 1 に記録する。この際、パーソナルバナー作成プログラム 6 上において、パーソナルバナーの画像を新たに作成しても良く、さらにパーソナルバナーのリンク先アドレスをオペレータが直接入力してもよい。

40

なお、パーソナルバナーの画像サイズは、既存バナー 5 a の画像サイズが利用されるので、オペレータがこれを設定する必要はない。

このように、パーソナルコンピュータ 1 は、パーソナルバナーの設定情報として、パーソナルバナーの画像を、より詳細には選択された画像のファイル名を記録するとともに、リンク先のアドレスを記録し、また上述したように、選択された既存バナーを含むホームページのアドレスと、既存バナー 5 a が何番目のバナーであるかという位置情報とを記録するようになる。

【 0 0 1 1 】

50

上述した作業により選択した1つの既存バナー5 aをパーソナルバナーに変更する作業が終了すると、パーソナルコンピュータ1は、再びホームページ5を表示するようになる。この際には、上記既存バナー5 aは設定されたパーソナルバナーとして表示されるようになる。

この後、オペレータが他の既存バナーを選択すれば上述の作業が繰り返されるが、この際には既にホームページ5のアドレスは既に記録されているので、これを記録する必要はない。したがってこの場合には、既に記憶されていたパーソナルバナーの設定情報に、新たなパーソナルバナーの画像とリンク先のアドレスが記憶され、また新たに選択された既存バナーが何番目のバナーであるかという情報が記憶されるようになる。

このようにして再度ホームページ5が表示されるようになるが、この際には選択された2つの既存バナーが、それぞれ設定されたパーソナルバナーとして表示されるようになる。以後、同様にして順次新たな既存バナーを選択してこれをパーソナルバナーに変換することができる。

また、既に設定されて表示されているパーソナルバナーがオペレータによって選択された場合には、これの修正が行なわれるようになる。この際には、修正の対象となっているパーソナルバナーについて、新たに修正された画像とリンク先のアドレスとが記憶されるようになる。

【0012】

次に、上述の作業が繰り返されて、パーソナルコンピュータ1内にホームページ毎にそれぞれパーソナルバナーの設定情報が記憶された後に、パーソナルバナー作成プログラム6がいかにして既存バナー5 aをパーソナルバナーに変換するかを説明する。

図5に示すように、最初にパーソナルコンピュータ1を立ち上げ、パーソナルバナー作成プログラム6を起動させた後にブラウザ4を起動させる。パーソナルバナー作成プログラム6を先に立ち上げることで、パーソナルバナー作成プログラム6がブラウザ4の状態をその起動時から監視することが可能となる。なお、ブラウザ4を起動した後にパーソナルバナー作成プログラム6を立ち上げた場合には、その時点からパーソナルバナー作成プログラム6がブラウザ4の状態を監視するようになる。

この状態において、ブラウザ4に適切なホームページのアドレスを入力すると、パーソナルコンピュータ1はWEBサーバ3から入力されたアドレスに対応するホームページのデータを受信し始める。

通常、ホームページのデータは直接ブラウザ4に取り込まれるが、パーソナルバナー作成プログラム6はブラウザ4を監視して、該ブラウザ4よりも先にホームページのデータを取り込むようになる。このような手段は、ウイルス検出用のプログラムで従来既に公知であるので、その具体的説明は省略する。

そしてパーソナルバナー作成プログラム6は、ブラウザ4がどのホームページにアクセスしたのかを該ホームページのアドレスから入力すると、このアドレスがパーソナルバナーの設定情報内に存在するか否かを検索する。

仮に、上記アドレスがパーソナルバナーの設定情報内に存在しない場合には、パーソナルバナー作成プログラム6はWEBサーバ3より受信したホームページのデータをそのままブラウザ4に受け渡し、このブラウザ4はパーソナルバナー作成プログラム6から受取ったホームページを表示部1 aに表示させる。このときには、ブラウザ4は、WEBサーバ3から送信されたホームページをそのまま表示することになる。

【0013】

これに対し、ホームページのアドレスと、パーソナルコンピュータ1に保存されているパーソナルバナーの設定情報におけるホームページのアドレスとが一致した場合には、パーソナルバナー作成プログラム6は入力した該ホームページのデータから既存バナーのデータを検索するようになる。

例えばパーソナルバナーの設定情報において、当該ホームページの第3番目の既存バナーをパーソナルバナーに変更することが設定されている場合には、パーソナルバナー作成プログラム6は入力した該ホームページのデータから第3番目の既存バナーを見つけるまで

10

20

30

40

50

は、それ以前のデータをブラウザ 4 にそのまま受け渡すようになる。これにより、ブラウザ 4 はアクセスしたホームページを遅滞なく表示することができる。

そしてパーソナルバナー作成プログラム 6 が入力したホームページのデータから第 3 番目の既存バナーを見つけると、パーソナルバナー作成プログラム 6 は当該既存バナーの画像とリンク先アドレスとを予め選択されているパーソナルバナーの画像とリンク先アドレスとに書き換えてから、該ホームページのデータをブラウザ 4 に受け渡す。

したがって、ブラウザ 4 は書き換えられた表示用タグリストに基づくホームページを表示部 1 b に表示させる。このときには、表示用タグリストの内容がパーソナルバナーの設定情報に従って書き換えられているので、ブラウザ 4 に表示されるホームページには既存バナーに変わってパーソナルバナーが添付されていることになる。

10

パーソナルバナー作成プログラム 6 は、当該ホームページについてのパーソナルバナーの設定情報において、上記第 3 番目の既存バナーの他に、例えば第 4 番目、第 6 番目の既存バナーをそれぞれパーソナルバナーに変更することが設定されている場合には、上述したのと同様にして第 4 番目および第 6 番目の既存バナーをそれぞれパーソナルバナーに変更するようになる。

【 0 0 1 4 】

このようにしてブラウザ 4 がホームページを表示した状態で、該ブラウザ 4 によって、既に変更されて表示されているパーソナルバナーが選択された場合には、該ブラウザからはパーソナルバナーに設定されたリンク先のアドレスが W E B サーバ 3 に送信されるため、W E B サーバ 3 はそのリンク先のホームページをパーソナルコンピュータ 1 に送信するようになる。

20

この際においても、W E B サーバ 3 から送信されたホームページのデータは、上述したのと同様に最初にパーソナルバナー作成プログラム 6 に取り込まれる。そして、そのホームページに添付された既存バナー 5 a がパーソナルバナーに変更されていないのであれば、パーソナルバナー作成プログラム 6 はブラウザ 4 にそのホームページを表示させ、変更が加えられているようなら上述の処理を行った上で既存バナー 5 a をパーソナルバナーに変換した後にブラウザ 4 にホームページを表示させるようになる。

したがって、第 1 のホームページの既存バナーを、第 2 のホームページをリンク先とするパーソナルバナーに変更するとともに、第 2 のホームページの既存バナーを、第 1 のホームページをリンク先とするパーソナルバナーに変更しておけば、パーソナルバナーを選択することにより直ちに一方のホームページから他方のホームページに相互にアクセスすることができる。

30

【 0 0 1 5 】

なお、上記実施例においては、変更すべき既存バナーを特定するために、当該既存バナーがホームページ上の何番目に位置するかによって該既存バナーを特定しているがこれに限定されるものではなく、変更すべき既存バナーが特定できればそれ以外の如何なる手段であってもよい。

【 0 0 1 6 】

【 発明の効果 】

以上のように、本発明によれば、ホームページに予め添付されている既存バナーを利用して、これを好みの画像のパーソナルバナーとリンク先アドレスとに変更することができるので、上記パーソナルバナーを選択することで直ちに望みのホームページにアクセスすることができるという効果が得られる。

40

【 図面の簡単な説明 】

【 図 1 】 パーソナルコンピュータ 1 が通信回線 2 を介して W E B サーバ 3 に接続されている状態を示す概略図。

【 図 2 】 ブラウザ 4 によって表示されたホームページの一例を示す図。

【 図 3 】 既存バナーについてパーソナルバナーを設定する際のフローチャート。

【 図 4 】 図 2 で示したホームページの表示用タグリストを示す図。

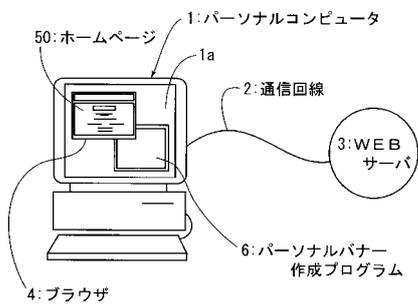
【 図 5 】 既存バナーをパーソナルバナーに変更する際のフローチャート。

50

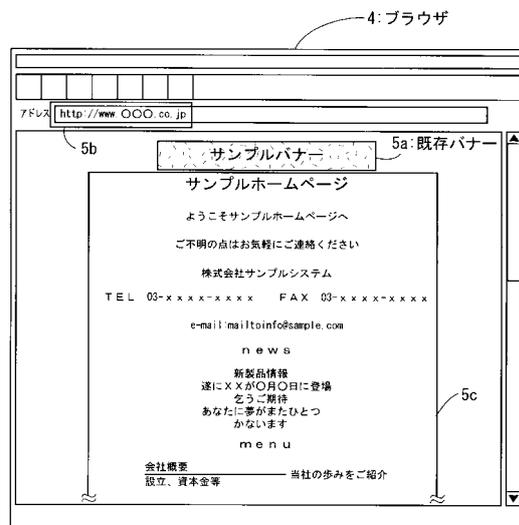
【符号の説明】

- 1 パーソナルコンピュータ
- 2 通信回線
- 4 ブラウザ
- 6 パーソナルバナー作成プログラム

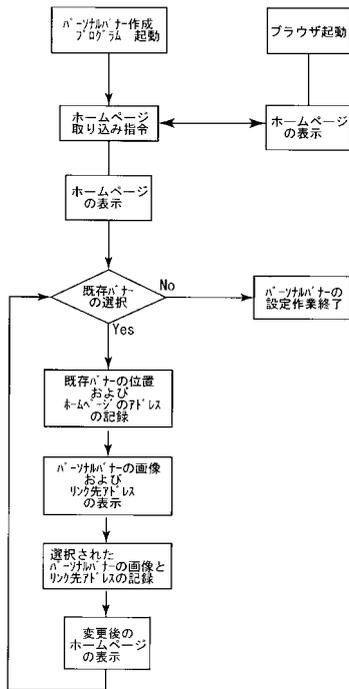
【図1】



【図2】



【 図 3 】



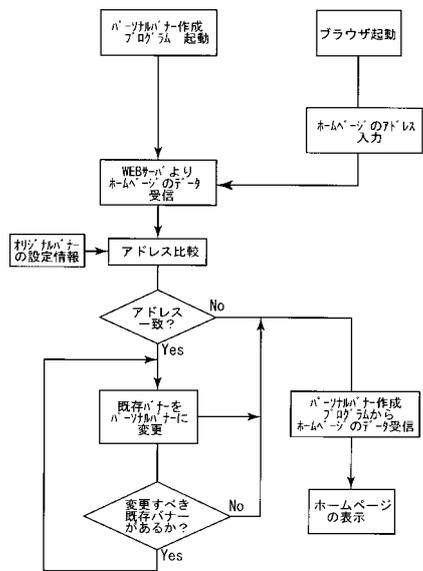
【 図 4 】

```

<HTML>
<HEAD>
<META HTTP-EQUIV="Content-Type" CONTENT="text/html, charset=x-sjis">
<TITLE>Sample ホームページ</TITLE>
</HEAD>

<BODY Background="pp02B.gif">
<CENTER>
<BR><BR>
<A HREF="http://sample.com/B/image=sample.JPG"><IMG SRC="sample.JPG"
ALT="SAMPLE"WIDTH=440 HEIGHT=60 BORDER=1</A>
</CENTER>
<A NAME="Top"></A>
<CENTER>
<FONT FACE="MS 明朝" SIZE="6" COLOR="#0000FF">
<BR>
<B>サンプルホームページ</B><BR><BR>
</FONT>
<FONT FACE="MS 明朝" SIZE="4">
<I>*ようこそサンプルホームページへ</I><BR><BR></FONT>
<FONT FACE="MS 明朝" SIZE="3">
<I>ご不明の点はお気軽にご連絡ください。</I><BR><BR>
株式会社サンプルシステム<BR><BR>
TEL 03-XXXX-XXXX FAX 03-XXXX-XXXX<BR><BR>
</FONT>
<FONT FACE="MS 明朝" SIZE="4">
e-mail<A HREF="mailto:info@sample.com">info@sample.com</A><BR>
</FONT>
<BR><BR>
<B<FONT size="2" color="#0000ff">news</B>
<BR>
</FONT></B>
<FONT><FONT color="#ff0000">新製品情報</FONT><BR>
速にX XがO月O日に登場<BR>
えうご期待<BR>
あなたの夢がまたひとつ<BR>
かないます<BR>
<BR>
<FONT size="+2" color="#0000ff"><B>menu</B>
</B></FONT></P>
<TABLE>
<TBODY>
  
```

【 図 5 】



フロントページの続き

- (56)参考文献 特開平10-021263(JP,A)
特開2002-092483(JP,A)
特開2002-024678(JP,A)
特開平11-259497(JP,A)
特開2001-167032(JP,A)
Oh!PC,日本,ソフトバンクパブリッシング株式会社,1999年 8月 1日,第18巻
/第2号,第46頁
渡邊 八一,アプリケーション使いこなし術,Mac Fan internet,日本,株式会社毎日コ
ニケーションズ,1999年 9月 1日,第4巻 第9号,第87頁

- (58)調査した分野(Int.Cl.⁷,DB名)
G06F 13/00 540